拝啓　今年も早や 10 月下旬となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今年の秋は猛暑続きの夏からしばらく天候不順の日が続き、いつの間にか秋になりましたが、期待したさわやかな日は少なかったように感じます。近所の公園では、紅葉が始まりかかっていますが、何となく例年と違うなあという感じを持っています。夏の猛暑のせいではないかと思います。

今回は、カウマン夫人編著の『日の出に向かって』の 11 回目ですが、11 月 19 日のところに出ている詩には、次のように書かれています。

「あたたかな手の感触　励ましのひと言葉　聖書の一句が記された一枚の紙片　わたしたちは、そんな取るに足りないものを普通、伝道の業とは呼びません　しかし心が疲れ切っている人には　ああ、私たちは気づかずとも　そんな小さな事柄が　良き結果をもたらす力となるのです　ひとりの魂の幸福に役立つものを　取るに足りない小さなことだということはできません」

この小さなエンカウンターでお伝えする励ましのひと言葉が、お役に立てば大変うれしく思います。特に今年お送りしたカウマン夫人の『日の出に向かって』については、励まされたという感想をお伝えくださる方が多く、うれしく思っています。

さて、10 月 9 日から 11 日まで 3 日間、本誌読者の佐藤昭夫さんと二人で、黒部渓谷下の廊下を歩いてきました。大町から入り、黒 4 ダム上流のロッジ・クロヨンに止まり、黒部渓谷に沿って断崖絶壁に造られた小道を阿曽原小屋まで歩き、翌日は欅平まで歩き、宇奈月温泉を経て新黒部駅から北陸新幹線で帰りました。朝 4:30 に出発し阿曽原小屋に着いたのが夕方 5:00、その日は歩数計で 46000 歩の歩行、途中に山小屋がないロングコースで、私は体力に心配がありましたが、何とか完走できました。このコースは 3 度目でしたが、紅葉が日本最高クラスなのですが、今年は黒四ダム付近だけでした。黒部渓谷の断崖絶壁の山道を歩いていて、こんな危険なところでは、注意を払うから事故はない、事故があるとすれば、歩き終えて、ほっとした場所にたどり着いてからだ、と思っていました。

1 週間後、それに近いことが起こりました。隣家の人から言われて、隣家の敷地にはみ出している庭木を剪定していた時、1 時間ほど大きな枝を切り、最後に高い所にある小さな枝を不自然な姿勢で切った時、バランスを失い脚立から転落しました。とっさに木の枝を掴んで止まりましたが、フェンスを越して隣の敷地に頭から落ちていたら、死に至るようなけがをしたか、首の骨を損傷して半身不随になるとか、重大な事故になっていたと思います。木の枝を掴んで、紙一重の差で命拾いしたと思い、神様に感謝しました。どうぞ皆様も、庭木の剪定をするとき、家や駅の階段を降りるとき、手すりを掴んで安全な姿勢で降りるように注意しましょう。それと急いで信号を渡る時。重大な事故は、下の廊下のような危険な所ではなく、家の中など何でもないところで起こることが多いと思います。

季節の変わり目、お身体ご自愛のほど祈り申し上げます。

平成 30 年 10 月 24 日　　山口周三

エンカウンターの読者各位